

各地履り

千葉市から 会員 小野、盛雄 報

はじめに—この履りは六月頃以前、本年四月頃まで、次の六月発行の百九号に載せることにしていたが、はからずモハガキを紛失、半年たつた先般本の中から発見、私にとりかき履りです。原文のまま揚が、会員へ皆さんにお目にかけます。このような各地履り歓迎。(編者)

拝啓 御無沙汰致しました。第一〇八号史談誌有難く拝掌いたしました。

四月の初め、東京の上野公園に花見に行きました。桜花は見事なものでしたが、極端な雑踏と塵芥の山で、大都市内の花見風景というものを見て、再び来るものではないと感じました。

市川市(注千葉県、東京都に隣接)の中山法華経寺の楼は、五重塔などの伽藍、松・ケヤキの老樹と相和して、心のなごむ花見が出来ました。

この寺は、日蓮上人直筆の「立正安国論」(国宝)が蔵されてあり、また当時の古文書一二九通が昭和四十二年同寺から発見された由。

境内は広大で、門前市を形成しており、楼門を入っても、参道の片側に茶店が数軒並んでいます。蓮華の小さいのを皮付きのまま蒸したのを、皿に盛って売っている、ひなびた風情でした。

さて、佐伯町の谷の招魂所、上段右側、陸軍少尉誠補鈴木賢(千葉県千葉市佐藤)について調べていますが、目下のところ、子孫の方については調査未了ですが、住所は千葉市ではなく、下総国印旛郡野狐台所、士族惟親長男(現在の佐倉市野狐台)です。野狐台は域外武家屋敷

所で、明治以前までは所家はまったく無かった由。

東京鎌倉佐倉歩兵二連隊は、明治十年二月十六日佐倉登徒歩で東京へ、新橋から横浜まで汽車、海路福明に上陸、徒歩で熊本に達し、熊本・宮崎・鹿児島と転戦十数回、このうち敗退すること数回もあり、九月二十八日鹿児島港から乗船、十月一日神戸上陸。十月三日神戸発汽車で京都到着。京都からは東海道を行軍し、十一月一日佐倉に凱旋しています。

戦死者は中尉三名、少尉誠補二名、軍曹二名、伍長十二名、兵卒七十名、元教導団生徒三名、計九十二名という事です。(千葉県史料近代編より)

当時の歩卒の月給は一月二匁五厘だったと、当時の軍隊手帳から判った事です。

先生の御健康をお祈り申し上げます。

(オエガキ)

小野会員は昨年十一月佐伯を去って、ご子息の居られる千葉市に移られました。これははかき履りで二度目のお便りでありました。

故河野兵一編「招魂所墓碑調査書」によると、この鈴木少尉誠補は、明治十年八月二日日向國三河川の三角山で戦死、所属部隊は若古屋鎌倉隊備軍歩兵第陸隊第一中隊です。

しをかつて御子の佐倉連隊ではなかったようですが、これは将校で配属の関係で若古屋鎌倉隊となったためでしょう。

なお、佐伯招魂所には千葉県出身の戦死者は、外は全くありません。

明治十年のその時、千葉県は佐倉と九州を結ぶ陸軍隊移動の様子、県全体の戦死者の数など、それに兵卒の給与も合せて、百年前の明治の初年の世情がわかる、貴重な史料です。

半年の掲載おくり、おかり下さい。(拜察)

